



取材は男きもの専門店「銀座SAMURAI」をお借りしました。  
梅田店長ありがとうございました。

# 人間国宝、大倉源次郎さんが伝えたい 『ザ・フューチャー・イン・トラディション』 とは何か？に迫る

国で間伐材はものすごく余っていて、問題になっています。だったらそんな木を使っ  
て、全国に数寄屋の様式で演芸場を作ると、外国からくる人は日本文化を感じる  
ことができますよね。そこで働く人は、もちろんきもの  
で、提供する日本食も、全国各地の食器や工芸品を使え  
ば、あつという間に日本の工芸文化が生き返ります。使  
う場所も少ないのに、技術だけを残そうとしている文化  
行政はおかしいと思います」

**その通りですね。でもそんな思いをどんな人に届けたらいいでしょうか？経済界**

**ですかね？**  
「そう思います。でもバブル  
でいい経験した人たちの視  
点を変えるのは難しいで  
しょうから、30代、40代の方  
に20年後、30年後のことを  
考えていただきたい。東京海  
上さんの新しいビルは木造  
建築にされるといふことで  
すが、いいものをしっかり作っ  
て、それをリニユアルしなが



大倉源次郎氏  
能楽小鼓方大倉流16世宗家  
(大鼓方大倉流宗家預かり)  
重要無形文化財保持者各個人認定  
(人間国宝)  
公益社団法人 能楽協会理事

ら使い続けるという考えが  
大切ではないでしょうか」  
「資本主義の中で、いろいろな  
数字だけで判断される経済  
社会はいかかなものかと思  
います。人間は本来、愚かです  
から人を騙してでも稼い  
じやう社会は残念ですよ」  
「文化の視点から経済を回  
せる時代が理想ではないで  
しょうか。経済の中で文化  
を動かしていくと、その経  
済が衰退すると、文化も減  
びてしまいます。衰退しま  
す。例えば稲作文化とい  
うのはしっかり残って経済を  
回していますよね。これが  
いい例なんです。産業革命以  
降、経済で作られた文化、  
例えば自動車、テレビ、情報  
媒体など、どんどん変わっ  
ていきます。そして稼げなく  
なると減びてしまいます。  
減びるものは減びていいと  
いう考え方は、一方、例えば  
雅楽はなぜカタチを変えず  
に1400年続いているん  
でしょうかと問うても、答  
えられないわけですよ。  
「文化を中心にした経済

は、今でも回り続けていま  
すよという思いを広く伝え  
たいというのが、今回、大阪  
・関西万博で企画している  
『ザ・フューチャー・イン・トラ  
ディション』なんです(編集  
部註:本誌裏表紙やホーム  
ページをご覧ください)「  
こんなお話をお聞きすると  
大阪関西万博での企画の狙  
いを深く理解できたように  
思います。『ザ・フューチャー・  
イン・トラディション』の中  
には経済界の多くの若手から  
の賛同がありますね。  
「今、気がついてもらえると、  
この人たちが実際に社会を  
動かすリーダーになった時、  
変わっていくと思います。  
今は、最先端の技術の中に未  
来をつくらうとしています  
が、最先端を走ると経験値が  
ないので失敗することが多い  
のではないのでしょうか」  
この後も興味深い文化、社  
会の話が続きました。ぜひ  
続きは次回以降に紹介し  
たいと思います。」

今日はとてもお忙しい中、  
ありがとうございます。ま  
た、大阪関西万博での魅力  
的イベントのご案内、お誘  
いをいただき感謝いたしま  
す(編集部註:本誌裏表紙を  
ご覧ください)。  
まず、和装で歩く楽しさに  
ついて伺います。  
「59歳の2月、ブッタの国イン  
ドに行きました。仏様の国  
ですからきもので行こうと  
思い、旅行中、きもの姿で通  
しました。「けつこう楽なん  
だ」と改めて気づいて、その  
時から普段からきものを着  
るようになったんです」  
「きものを着ると2つプラス  
ワンの視点ができると思  
います。一つは、きものを着て、  
16世紀に初めてヨーロッパに  
渡った人の気持ちと通じる  
ことができる。二つ目は、江  
戸時代から明治維新にか  
けて、きものを着続けて現  
代文明を迎えた人の視点  
を感じることができるこ  
と。きもの着ると、この二つ  
の視点から思いを馳せるこ



## 今日の和装家は 能楽小鼓方大倉流16世宗家・人間国宝 大倉源次郎さん

(聞き手/四季誌和装家編集長・佐藤正樹)

とができると思います」  
**プラスワンもぜひ教えてください。**  
「袴をつける、よく裾を踏  
んづけてしまいますよね。  
その時『シンデレラの気持ち  
がわかる』と。ロングドレス  
を着るとこんなに歩きにく  
いんだと(笑)こんな風に、絶  
えず自分に新しい視点を与  
えてもらえると嬉しいです。  
スタッフの店員がみんなきも  
のだったら、どんなだったん  
だろうかと、思うととても楽  
しいですよ」  
**残念ながら、普段からきもの姿を通す方はとても少ないです。**  
「江戸時代は職人文化。あ  
らゆるものが手仕事で作ら  
れていた。その延長線上にき  
もの文化があるんです。日  
本の精神性を取り戻して、  
わずかながら残っている職人  
文化を守ることがとても大  
切だと思います」



**日本」を作るといふ目標にとっても違和感を感じたので**  
すが。  
「政治家が日本文化に無関  
心になつているのは残念です  
ね。江戸時代、政治をする  
お侍さんの共有文化が実は  
能楽だったんです。だからと  
ても教養が高い。例えば、5  
歳ぐらゐの頃から謡200  
番を誦うことを身につける。

謡曲は多くの人の心を誦う  
ことです。ですから人の心が  
わかる為政者ができる。元  
服したら一人前の日本人に  
なつているので、高度な統治が  
行えるわけです。その能楽  
を元に、歌舞伎や文楽が庶  
民文化として広がつた時  
代。精神性を大切にした時  
代だからこそ、戦争のない時  
代が数百年続いた。そんな

歴史は世界中にも極めてめ  
ずらしいことですよ」  
**和装で作る未来を考えたい  
ですね。大倉さんはどんな  
未来を思い描きますか？**  
「いろいろな都市開発が進ん  
でいるけれども中心部には  
木の建物が少ないでしょ。例  
えば30%を数寄屋建築にす  
るとか。ご存知のように全